

年中児における名前書字と言語機能の関連

中村哲也^{*,1)}、小林マヤ²⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾昭和女子大学

1. はじめに

子どもが書くことを学ぶ最初のステップは自分の名前を書けるようになることであるが、幼児が自分の名前を書けるかどうかには差がある。欧米では、この差は早期リテラシー発達の側面や運動技能、問題行動といった様々な要因との関連が指摘されている。しかし、日本では名前書字がどのような要因と関連しているかの研究に乏しい。そのため、年中児を対象に日本における名前書字の発達と言語機能の関連性について検討した。

2. 方法

こども園に在籍する年中児 49 名 (月齢平均 64.0 ± 3.4 カ月, 男児 23 名/女児 26 名) を対象とした。

名前書字は、白紙の紙を渡して「あなたの名前を書いてください」と指示した。名前書字の発達段階は Liberman(1985) の評価マトリックスを日本語に適合するよう修正し、10 段階に分類した。段階 0~3 は文字にはなっていないが書かれた図形が文字に近いかという視点によって分類した。段階 4 は名前の最初の 1 文字だけ書けるもの、段階 5 は名前は全て書けるが文字の並び順が違うもの、段階 6 は名前が全て正しく書けるものとした。段階 7 は名前と苗字が半分以上書けること、段階 8 は名前と苗字の文字は全て書けるが文字の並び順が違うもの、段階 9 は名前と苗字が全て正しく書けること、段階 10 は名前と苗字が漢字でかけることとした。

言語機能の検査は、WPPSI-III の言語理解指標 (VCI)、絵画語彙発達検査 (修正得点)、音韻意識検査として語頭・語尾選択課題 (語頭・語尾、各 10 試行)、仮名一文字の音読検査 (ひらがなとカタカナ各 18 文字) を実施した。

3. 結果

名前書字検査と各言語検査について Pearson の累積相関係数を算出した。絵画語彙発達検査 ($r=0.45$)、音韻意識検査 ($r=0.45$)、仮名音読検査 ($r=0.36$) とは相関が認められたが、WPPSI-III の VCI ($r=0.19$) とは相関は認めなかった。しかし、VCI80 未満の 5 名を除くと WPPSI-III の VCI ($r=0.31$) は名前書字との相関を認めた。

4. 考察

年中児における名前書字は言語機能全般との相関を認め、名前を書かせるという簡単な課題で言語機能のスクリーニングが出来る可能性がある。しかし、VCI80 未満の子どもを含むと VCI は名前書字との相関を認めなかった。これは、名前書字は視空間認知や家庭の学習環境、運動発達など言語機能以外の要因とも関連するためと推測された。